

2021年1月27日

新型コロナウイルス感染症拡大の中でのがん診療提供体制等の患者への周知に関する意見書

( 構成員提出資料 )

村本高史

現下の新型コロナウイルス感染症拡大の中でのがん診療提供体制等の患者への周知につき、本検討会の患者を代表する構成員として、各がん診療連携拠点病院に以下の通り要望いたします。

1 要望事項

- ・現下の新型コロナウイルス感染症拡大の中でのがん診療提供体制について、患者・家族等に対しホームページ等での周知を広く行うこと。
- ・患者・家族に対し、主治医を中心とした医療スタッフから患者・家族の自己判断による受療の中止等を行わないよう働きかけること。

2 要望の背景・経緯

( 1 ) 「新型コロナウイルス感染症拡大が及ぼしたがん患者への影響調査」の結果を踏まえて

- ・本調査は昨年10月、診断時に仕事をしていた診断5年以内のがん患者310名を対象に一般社団法人CSRプロジェクトが実施したWeb調査です。
- ・その中では以下のような結果が出ており、感染拡大の状況下にあっては、医療機関はもとよりがん患者にとっても極めて大きな影響を受けていると認識しております。

がん患者の12.9%が受療計画を変更している。特に治療を受けている群では26.4%が受療計画を変更している。(添付報告書P8のスライド16)

受療内容に変更を生じた人の内、自己判断で変更した人が37.5%、その内、治療群では14.3%、非治療群では50.0%となっている。(添付報告書P9のスライド17)

新型コロナウイルス感染症拡大の予防策の情報源は、テレビやラジオ、次いでインターネットが多く、医学系学会や医療機関の情報はあまり活用されていない。(添付報告書P11のスライド22)

( 2 ) 「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」(平成30年7月31日)に照らして

- ・本整備指針においては、地域がん診療連携拠点病院や都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件の中で、情報提供・発信に関連する事項が以下の通り定められています(当該箇所抜粋)。

地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

4 情報の収集提供体制

( 3 ) 情報提供・普及啓発

自施設で対応できるがんについて、提供可能な診療内容について病院ホームページ等でわかりやすく広報すること。

都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件について

都道府県拠点病院は、当該都道府県におけるがん診療の質の向上及びがん診療連携協力体制の構築、PDCAサイクルの確保に関し中心的な役割を担い、の地域拠点病院の指定要件に加え、次の要件を満たすこと。

1 都道府県における診療機能強化に向けた要件

- ( 4 ) 都道府県協議会を設置し、当該協議会は、当該都道府県内のがん診療に係る情報の共有、評価、分析及び発信を行うとともに、診療の質向上につながる取組に関して検討し、実践するため、次に掲げる事項を行うこと。

当該都道府県におけるがん診療及び相談支援の提供における連携協力体制について検討すること。

- ・前記の要望事項はこの指定要件、あるいはその主旨に副った内容でもあり、患者にとっても重要な点であると共に、基本的にいかなる状況であっても充足されるべきものと考えます。

(3) 現下の状況の中で

- ・現下の新型コロナウイルス感染拡大の重大な局面の中でも、各がん診療連携拠点病院においては、感染防止に関するこの上ない注意を払いながら、また診療体制等の何らかの制約を受けながらも、がん診療提供の継続に懸命に努めて頂いていると重々認識しております。
- ・一方、緊急事態宣言下においても、「通院」は必要な外出・移動とされ、自粛すべき対象から除かれていますが、がん患者・家族の側は不安や混乱を抱え、テレビやインターネット等の情報に基づく自己判断で受療計画を変更しがちな点が少なからずあります。患者・家族の心理的に切迫しつつある現下の状況の中で、受診控えによるがん発見・治療の遅れや病状の進行に益々つながりかねないことを深く懸念しております。
- ・医療機関によっては、自施設のがん診療提供体制をわかりやすく発信している例もありますが、現下の状況だからこそ、患者・家族側の自己判断による行動に至らないよう、各がん診療連携拠点病院に対して今回の要望を申し上げる次第です。

以 上

新型コロナウイルス感染症拡大が及ぼした  
がん患者への影響調査  
結果報告書

2020年12月2日プレスリリース（修）

一般社団法人CSRプロジェクト



協賛：アフラック

© Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

目次

■ 調査概要とみえてきた課題	3
■ 回答者プロフィール	10
■ 本調査結果	14



© Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

## 調査概要とみえてきた課題

3

## 調査結果の目的など概要

### 1. 目的

新型コロナウイルス感染症拡大は、私たちの生活、働き方へ大きな変化を及ぼしている。また、医療面においては院内感染、オーバーシュートに係る外来閉鎖や受療制限など憂慮すべき状況となっている。未知の感染症という、私たち現代人が経験したことのない今回の課題は、社会、精神、身体へと大きな影響を及ぼしており、ワクチンを含めた治療方法が確立するまでの間、今後、数年にわたり収束と拡大を繰り返すことが想定されている。

そこで当団体では、新型コロナウイルス感染症拡大が、がん患者の治療、並びに生活に及ぼした影響について、①非常事態宣言の解除前と解除後、さらには、②新年度を迎え状況が変化したあとの（2022年）2地点において調査を実施、その動向や意識の変化を把握する。

### 2. 調査対象

- ・診断時に収入を伴う仕事をしていた、診断から5年以内のがん患者310人
- ・平均年収400万円以上、400万円未満の2つのグループに分けて収集を行った。

### 3. 調査時期

- ・第一回：2020年10月12日～13日、第二回：2021年（予定）
- ・調査方法：疾患パネルを用いたweb調査
- ・調査主体：一般社団法人CSRプロジェクト、・協賛：アフラック生命保険株式会社

### 4. 主な調査内容

- 診療状況の変化
- 情報の入手先
- 就労状況、時間、収入の変化

4

## 5. 回答者の特性

- ・男女比は男性65.5%（平均年齢60.7歳）、女性34.5%（50.4歳）、平均年齢は57.1歳。未婚33.5%、既婚66.5%
- ・居住地は関東地方32.9%、中部地方19.0%、近畿地方17.7%、九州地方9.0%、東北地方6.5%、四国地方5.8%など。
- ・罹患部位は大腸22.3%、乳房13.2%、前立腺12.6%、子宮・卵巣9.0%、胃8.1%、肺6.1%、肝胆膵5.5%、その他（甲状腺・膀胱・精巣など）。病期は0期（20.0%）、1期（32.9%）、2期（17.7%）、3期（11.9%）、4期（5.8%）。
- ・治療状況は、経過観察中（58.7%）、無治療（16.1%）、手術に向けた検査中（2.6%）、抗がん剤治療中（8.4%）、放射線治療中（2.3%）、ホルモン療法中（10.6%）。

## 6. 結果の総括

- がん患者の8人に1人が受療内容を変更し、薬物療法など何らかの治療を受けている群では4人に1人が受療内容を変更している。変更した人の中には自己判断で受療を変更した患者もおり、重症化などが懸念される。
- 自己判断で受療内容を変更した人の主な情報源はテレビやラジオ、インターネットなどが多く、医療機関や学会など確かな情報源へのアクセスが低いのが特徴的。疾患を有した患者に対しては確かな情報へのアクセス動線をつなぐことが大切である。
- 緊急事態宣言期間中は、約3割が一部、あるいは全面テレワークへ切り替えているが、これらは正規雇用が中心で、非正規雇用においては働き方の変更が行われていないことに加えて休業なども生じており、格差が生じている。
- 自営業、民間企業、非正規雇用を中心に就業時間や収入の減少が2～3割ほど認められている。内閣府「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」の提言にあるように、女性就業者数が多い産業、雇用形態等が受けた打撃は極めて大きいと推測され、今後、乳がんなど女性に多いがん種での経済的な困窮を背景とした受療行動への影響が懸念される。
- がん患者の約7割が、自分や家族の感染への不安、外出や人と会うことへの不安に加え、体調の変化や重症化、治療継続への不安を感じており、心理的支援も必要である

## 【提言】

- 科学的根拠が確かな情報源、情報間に対する患者への情報伝達の動線づくり
- 非正規雇用や自営業、民間企業就労者など、感染対策の強化と感染症拡大の影響により社会経済活動で影響をうける方への経済的支援の継続、拡充、制度利用の促進
- 新型コロナウイルス感染症、並びに、リスクに対する正しい知識の普及と対策の強化

## 調査結果からみえるがん患者像①

- がん患者の12.9%が治療計画を変更している。特に治療群では26.4%と高い。変更の理由は、主に院内感染への不安や通院途中での感染不安となっている。しかしながら、治療群の14.3%、非治療群の50.0%が自己判断で治療を変更しており、情報の非対称性は新型コロナウイルス感染症拡大にも生じている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって、治療内容やスケジュールに変更があった患者は12.9%。抗がん剤治療や放射線治療、ホルモン治療など、治療中患者への影響は大きく治療群では26.4%（非治療群では11.6%）と高い。変更内容は、外来や検査のキャンセル、延期がともに19件。点滴治療薬が内服に変更、薬物療法（点滴）のキャンセルや延期など。
- ・変更の判断者は、医療機関57.5%、自己判断37.5%となっている。男性の78.3%は医療機関の判断だが、女性の58.8%は自己判断となっている。治療群の78.6%、非治療群の45.0%が医療機関からの指示で変更となる一方で、治療群の21.4%、非治療群の50.0%が自己判断で変更しており課題である。
- ・自己判断で変更した理由は、院内感染の不安76.5%、通院途中の感染、自分が感染したなど。特に非治療群の90.9%が院内感染の不安を挙げている。

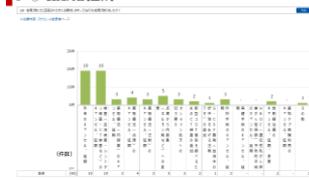
### 5 新型コロナウイルス感染症拡大による治療内容やスケジュールの変更



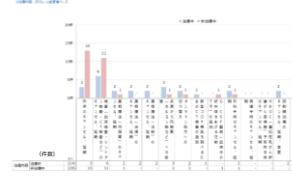
### 6 変更をした判断者



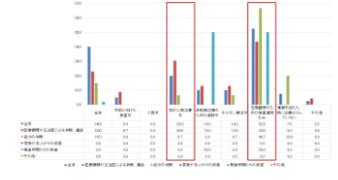
### 8-① 変更内容【全体】



### 8-② 変更内容【治療内容】



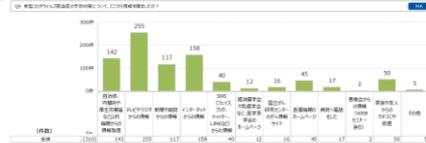
### 8-③ 変更内容【治療内容】%表示



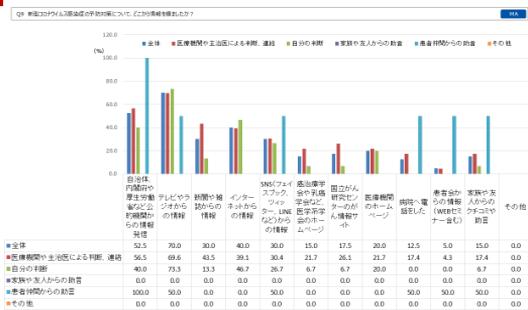
## 調査結果からみえるがん患者像②

- 新型コロナウイルス感染症に係る情報源は、テレビやラジオが主である。ほかインターネットや自治体・内閣府などの情報。学会や医療機関、国立がん研究センターはほとんど閲覧されていない。自己判断で治療を中止した人は様々な情報源へのアクセスを行っており、災害、あるいは感染症などの緊急性が高いケースでは、情報提供の一元化が重要と考えられる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に係る情報入手源の第一位はテレビやラジオ、第二位がインターネット、第三位が自治体・内閣府など公的機関の情報となっている。学会や医療機関、国立がん研究センターの利用は少なく、今後の課題と考えられる。
- 自己判断で治療を変更した人の情報源は、公的機関・医療機関などへのアクセスが少ないのが特徴。テレビやラジオ、インターネットSNSなどに振り回されている。また、地域間での差はあまり生じていない。

9-① 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【全体】



9-④ 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【全体】%



9-③ 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【地域別】



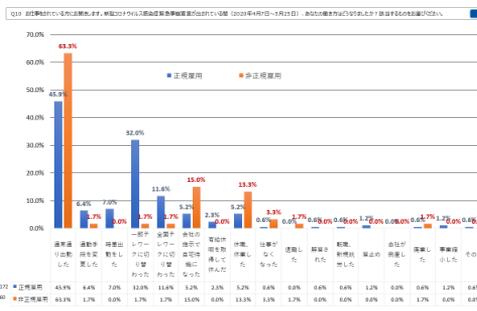
CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting 22

## 調査結果からみえるがん患者像③

- 緊急事態宣言の発令期間中は、約5割の人が普段通りの勤務を続けていたが、2割程度が一部をテレワークへ切り替え、1割が完全テレワークに切り替わっている。また、解除後もテレワークについては定着しつつあることが推測できる。しかしながら、こうした対応ができたのは正規社員が主であり、非正規雇用ではテレワークへの切り替え率などが著しく低い。雇用形態の違いは新型コロナウイルス感染症拡大の対応においても差が生じている。

- 緊急事態宣言前・後の働き方の変化は、通常通り出勤は63%、一部在宅勤務16.5%、時差出勤をした7.1%となっている。全体の1割程度は休業、仕事が無くなった、解雇、退職、雇止めなどに遭遇している。また、解除後も同程度で継続していることがわかる。
- これを雇用形態別で見ると、非正規雇用は、非常事態宣言中なども通常通り出勤した割合が高く、中には休職や休業、仕事がなくなったなど、就労に関して大きな影響を受けていることがわかる。特にテレワーク利用率は正規雇用と大きな差がある。

10-③ 緊急事態宣言中の働き方【働き方】 %比較



10-④ 緊急事態宣言解除前後の働き方の変化 (正規雇用・非正規雇用)



CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting 27

## 調査結果からみえるがん患者像④

### ●不安度と不安の理由

- ・就労時間の変化は、81.6%が変わらないとする一方で減った人が15.8%。月収は80.0%が変化なし、19.0%が減ったと回答している。これも職種での違いが大きく、労働時間については、自営業24.5%減、民間企業の従業員34.7%減、非正規雇用（パート・派遣社員・アルバイト）26.5%減。収入については、自営業が33.9%減、民間企業の従業員28.8%減、非正規雇用が23.7%減と、自営業、民間企業の従業員、パート・アルバイト・派遣社員など非正規雇用の患者に大きな影響を及ぼしていることがわかる。
- ・緊急事態宣言が出されている間は73.5%が「とても強く感じた・やや感じた」、16.5%が「あまり感じない・全く感じない」と回答。その理由は、第一位が「自分が感染するのではないか」、次いで「家族が感染するのではないか」、「外出すること」、「人と会うこと」、「体調の変化」となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症が、実際の感染リスクよりも高く捉えられている傾向がよくわかる。正しい情報発信が重要である。

### 12-13 緊急事態宣言前後の月収・就労時間の変化

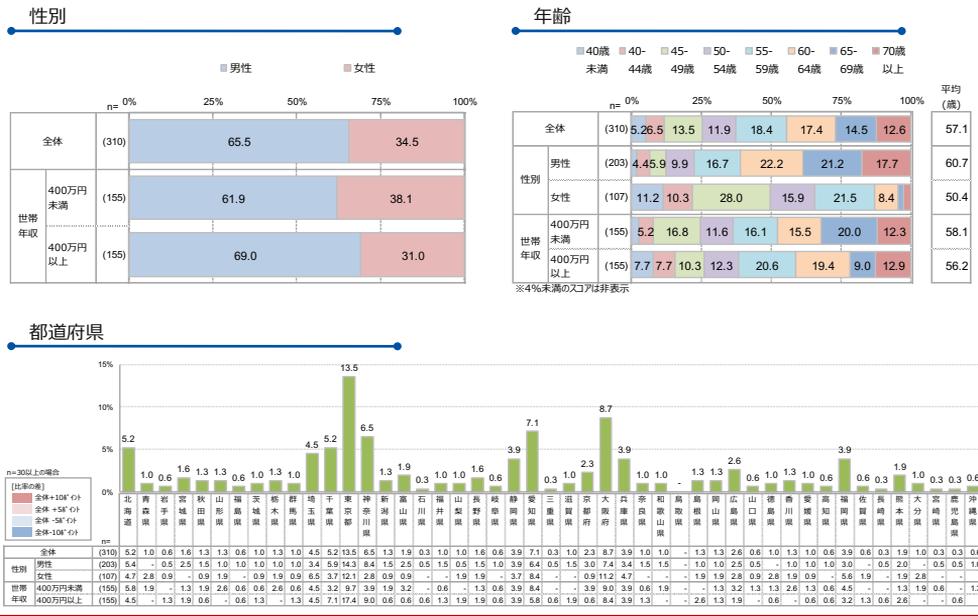
	全体	自営業	非営利・NPO等の従業員	民間企業の従業員	公務員	パート・派遣社員・アルバイト	専業主婦・学生	無職	その他
12-12 新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言が解除された後（2020年5月）に以前と同様の働き方（緊急事態宣言が出た前と同じ働き方） 緊急事態宣言が出た前を100%としてお答えください。	変わらない (253)	16.2	7.1	39.1	5.5	26.5	0.0	0.0	5.5
減った	(49)	24.5	4.1	34.7	0.0	26.5	0.0	0.0	10.2
増えた	(5)	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0
その他	(3)	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
13-13 新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言が解除された後（2020年5月）に以前とは異なる働き方（緊急事態宣言が出た前を100%としてお答えください。）	変わらない (248)	13.3	7.7	41.1	5.6	26.6	0.0	0.0	5.6
減った	(59)	33.9	1.7	28.8	0.0	23.7	0.0	0.0	11.9
増えた	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	(1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 15 不安に感じたこと

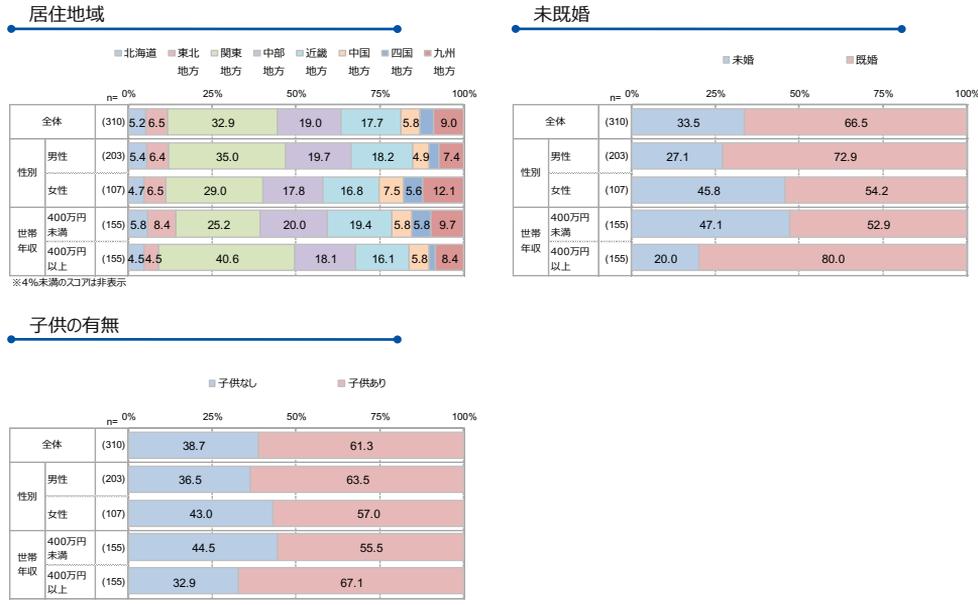


## 回答者プロフィール

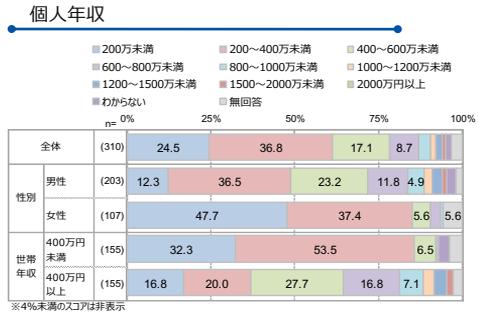
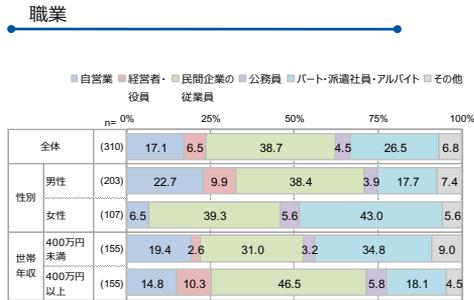
## 回答者プロフィール n=310



## 回答者プロフィール n=310



## 回答者プロフィール n=310

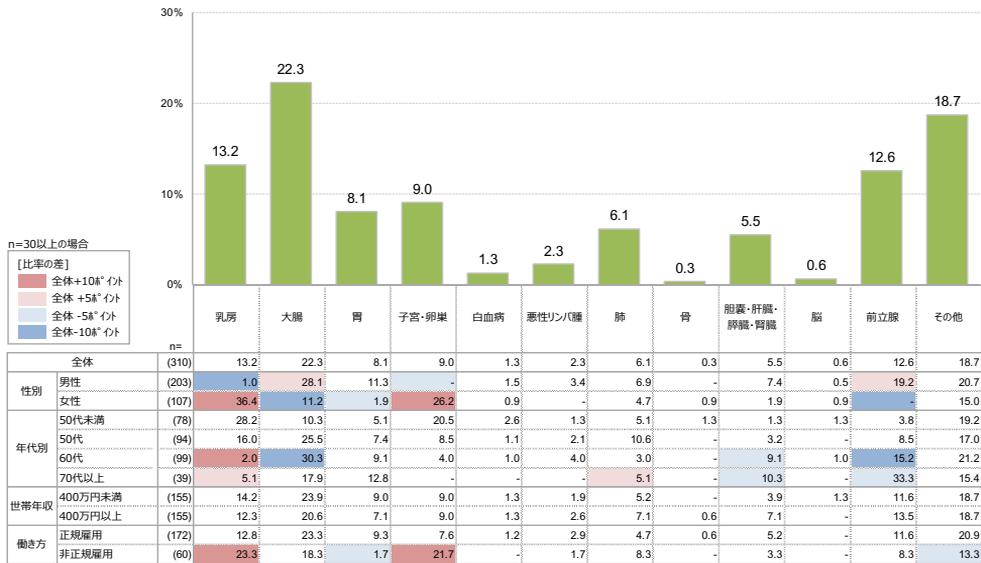


## 本調査結果

# 1 直近でがんと診断された部位

Q1 がんと診断された部位を教えてください。(最初に医師から何がんと言われましたか?)

SA

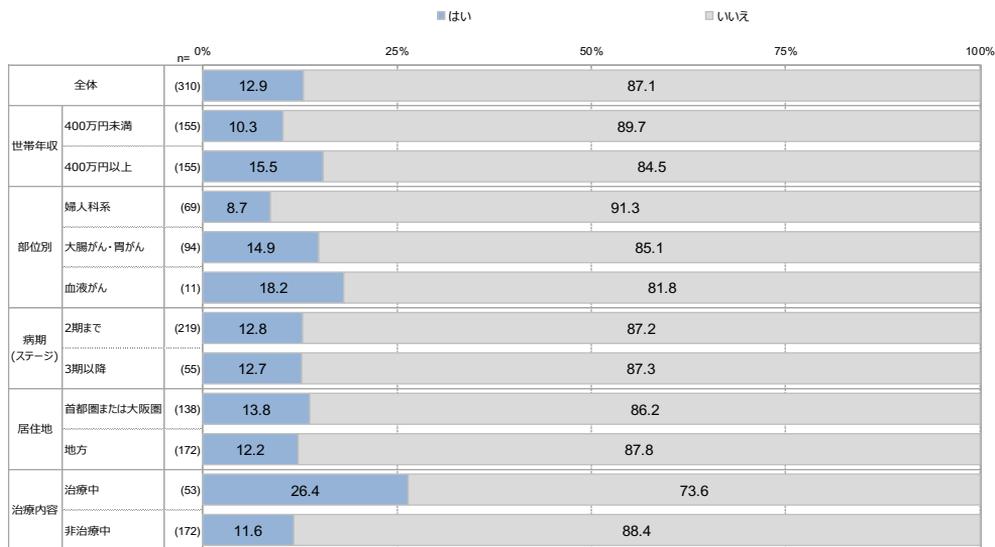


CSRP Project © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting 15

# 5 新型コロナウイルス感染症拡大による治療内容やスケジュールの変更

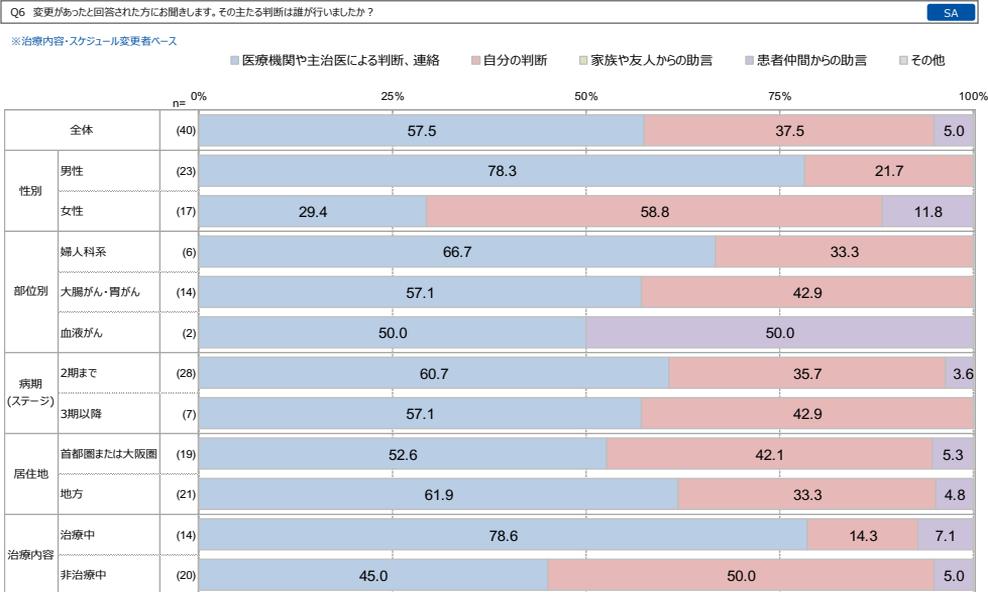
Q5 新型コロナウイルス感染症の拡大により、治療内容やスケジュールに変更はありましたか?

SA

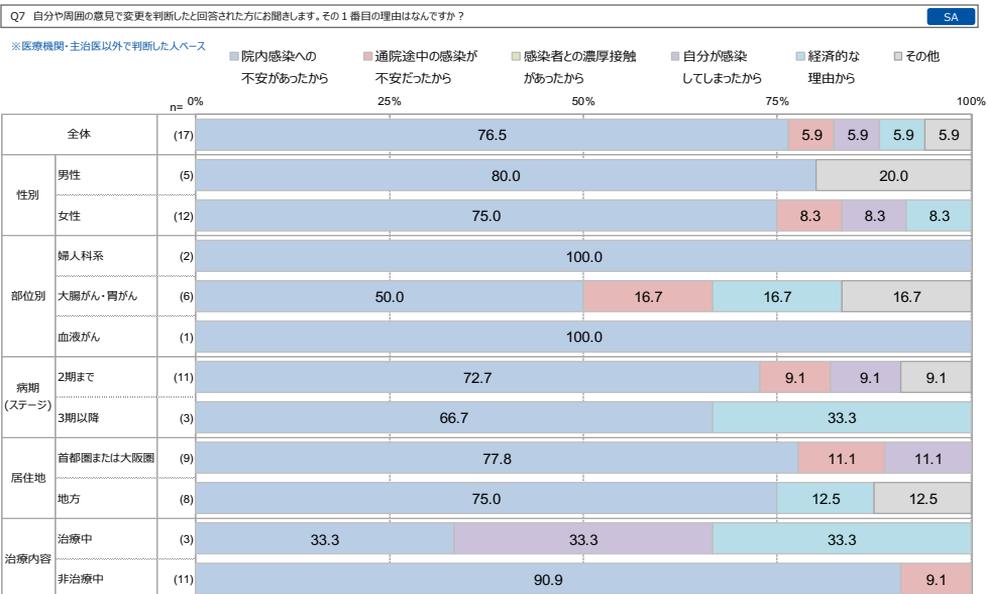


CSRP Project © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting 16

## 6 変更をした主判断者



## 7 自分や周囲の意見で変更を判断した理由

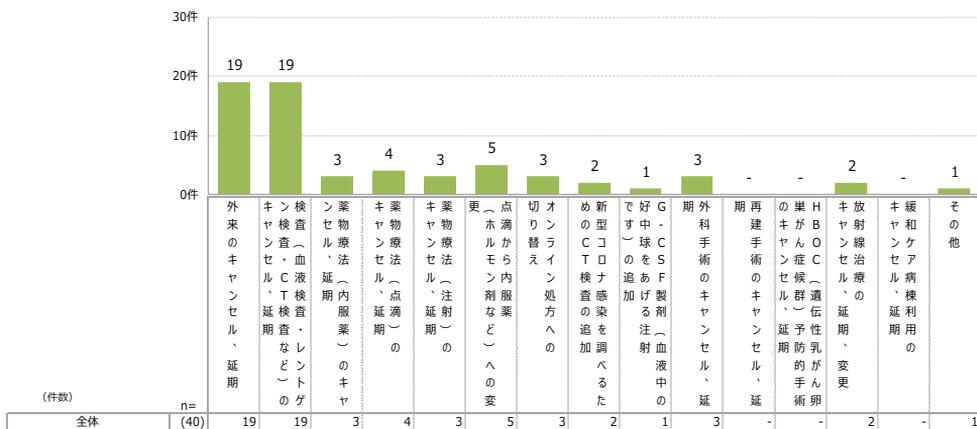


## 8-① 変更内容【全体】

Q8 変更があったと回答された方にお聞きします。どのような変更がありましたか？

MA

※治療内容-スケジュール変更者ベース

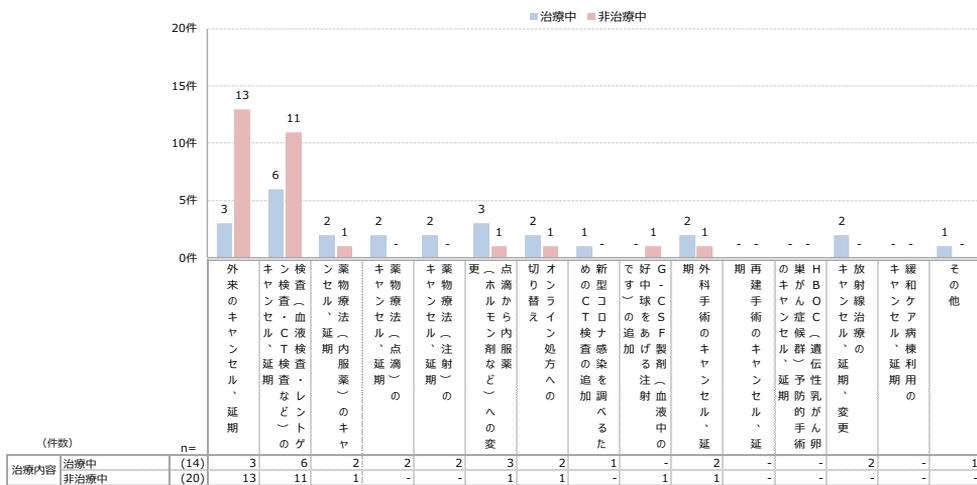


## 8-② 変更内容【治療内容】

Q8 変更があったと回答された方にお聞きします。どのような変更がありましたか？

MA

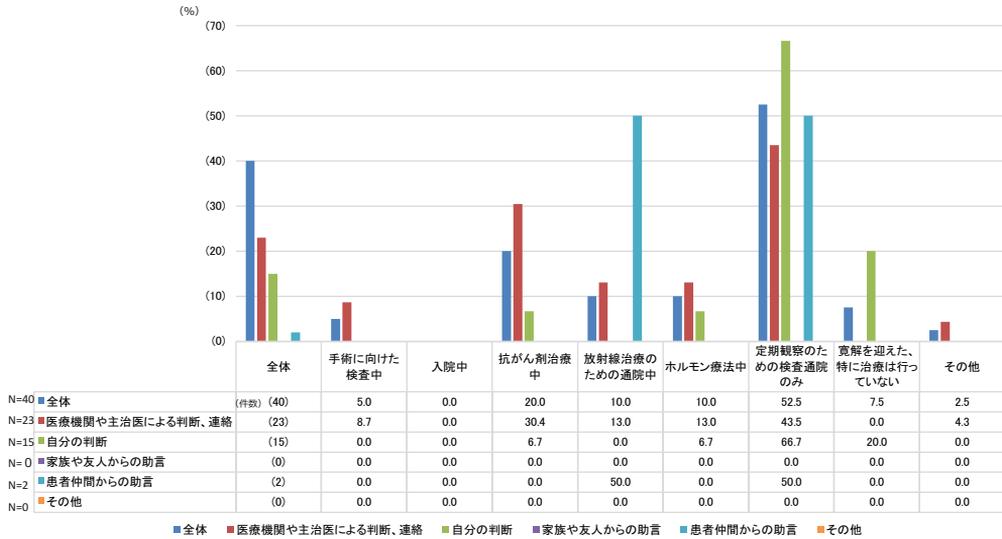
※治療内容-スケジュール変更者ベース



### 8-③ 変更内容【治療内容】%表示

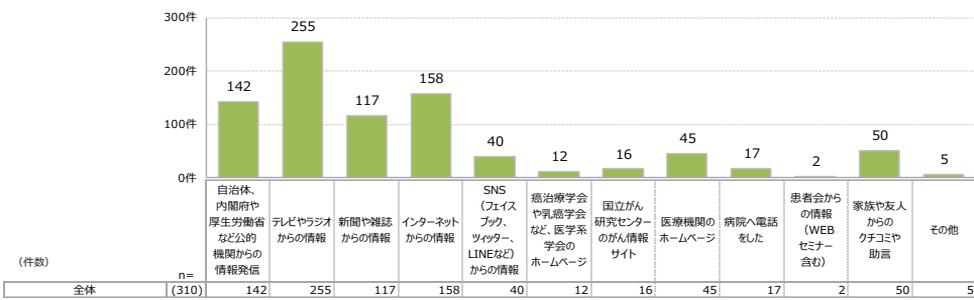
Q8 変更があったと回答された方にお聞きします。どのような変更がありましたか？ MA

※治療内容-スケジュール変更者ベース



### 9-① 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【全体】

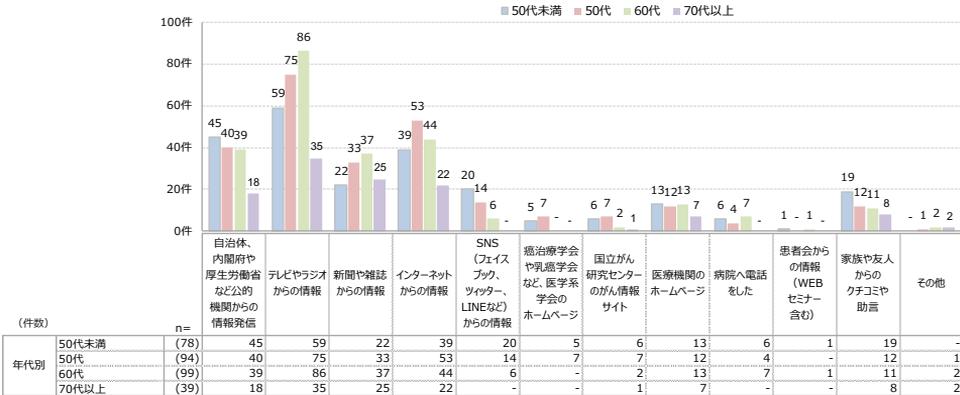
Q9 新型コロナウイルス感染症の予防対策について、どこから情報を得ましたか？ MA



### 9-② 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【年代別】

Q9 新型コロナウイルス感染症の予防対策について、どこから情報を得ましたか？

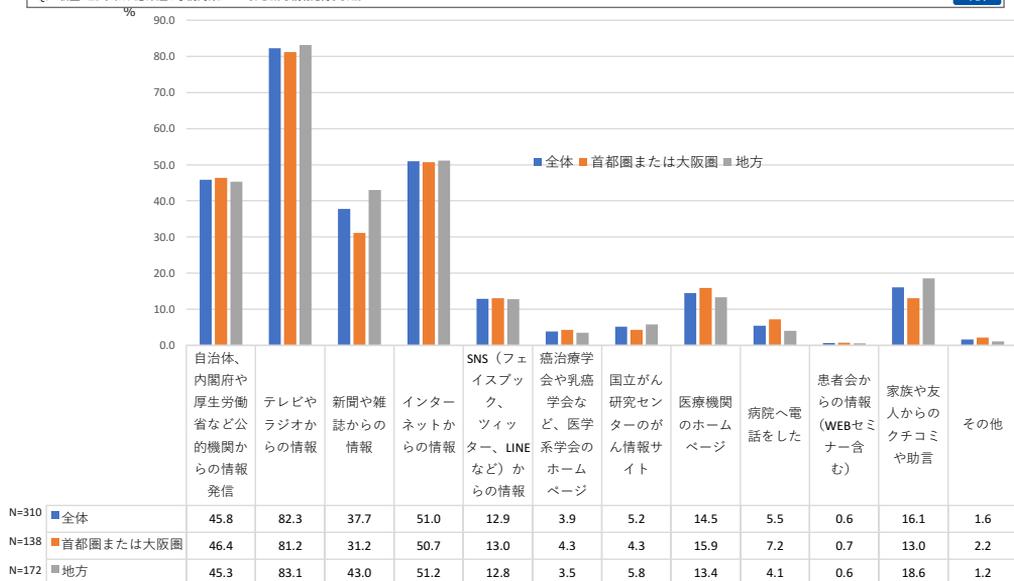
MA



### 9-③ 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【地域別】

Q9 新型コロナウイルス感染症の予防対策について、どこから情報を得ましたか？

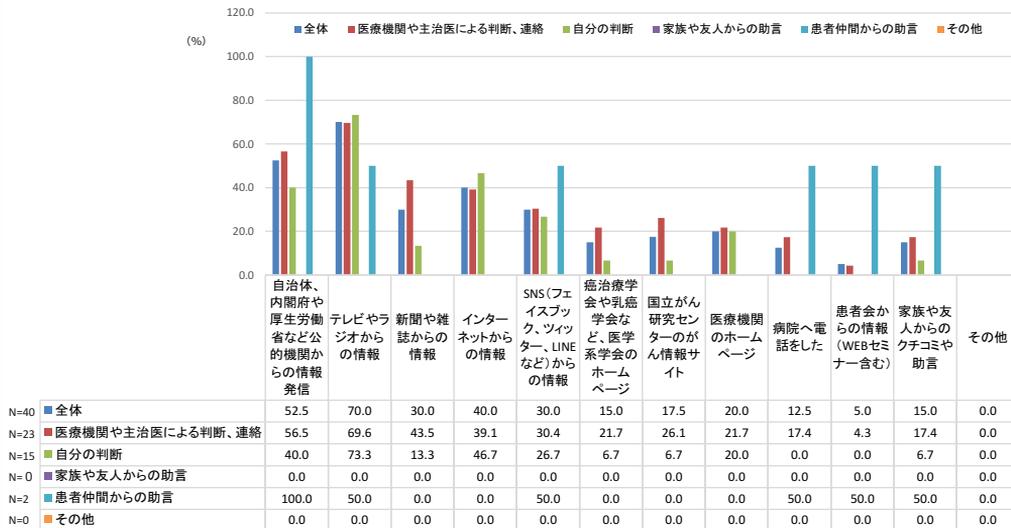
MA



### 9-④ 新型コロナウイルス感染症拡大の予防対策についての情報源【全体】%

Q9 新型コロナウイルス感染症の予防対策について、どこから情報を得ましたか？

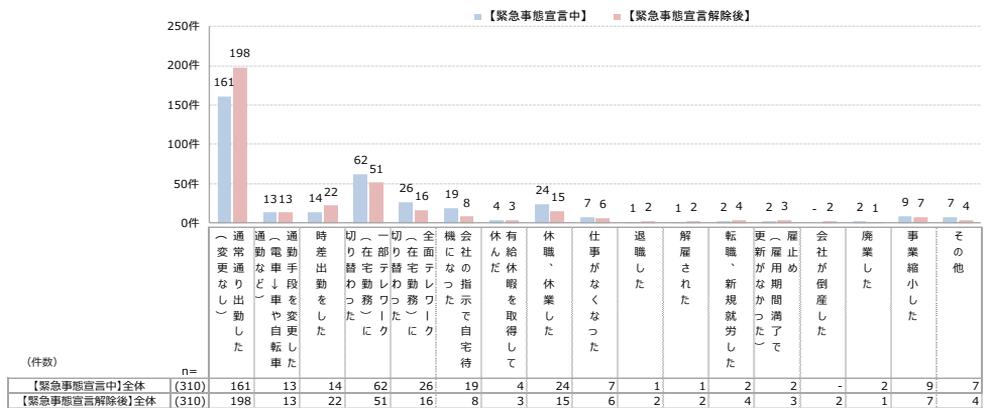
MA



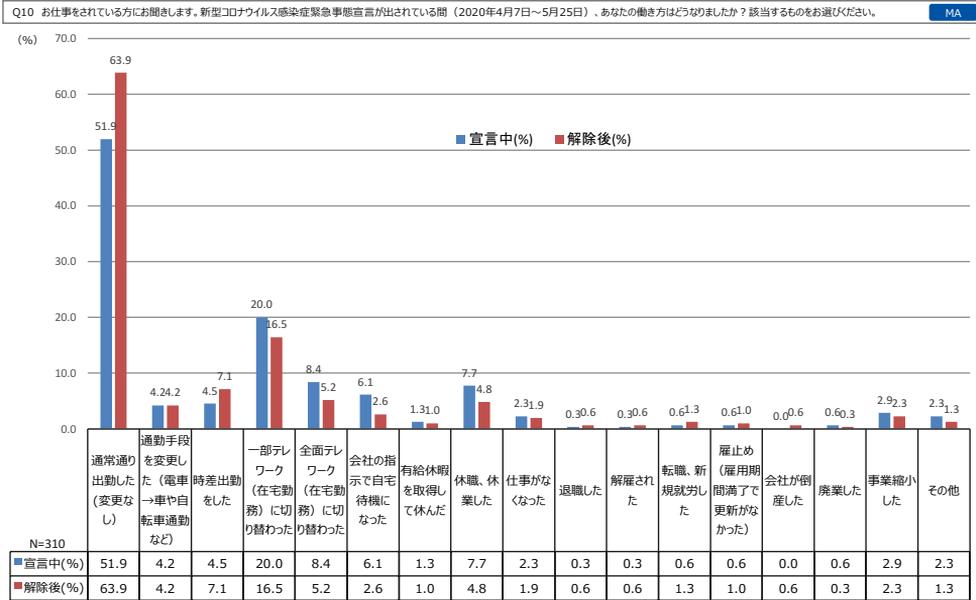
### 10-① 緊急事態宣言中/解除後の働き方【全体】

Q10 お仕事をされている方にお聞きます。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出されている間(2020年4月7日~5月25日)、あなたの働き方はどうなりましたか? 該当するものをお選びください。

MA



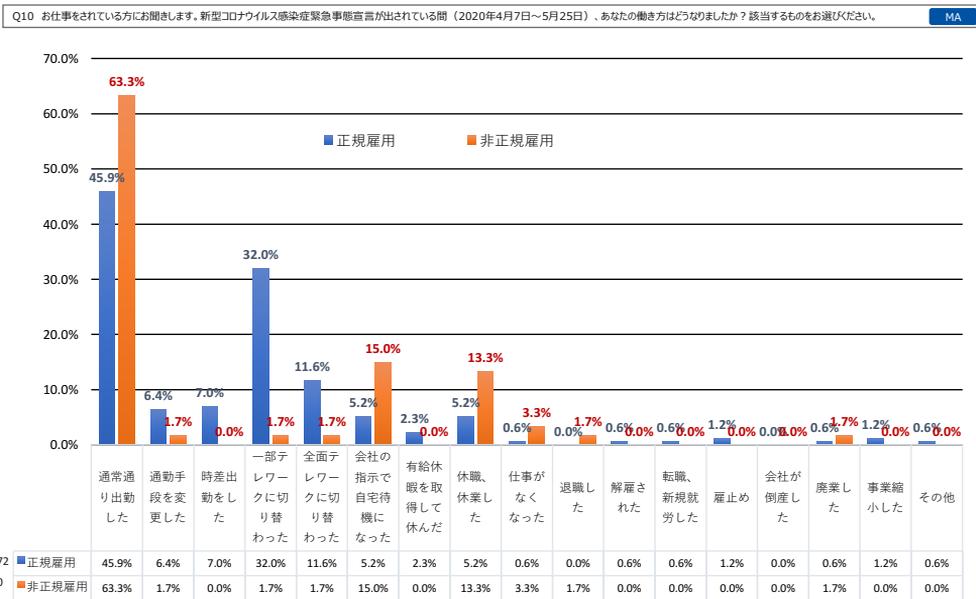
### 10-② 緊急事態宣言中の働き方【働き方】 %比較



CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

27

### 10-③ 緊急事態宣言中の働き方【働き方】 %比較



CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

28

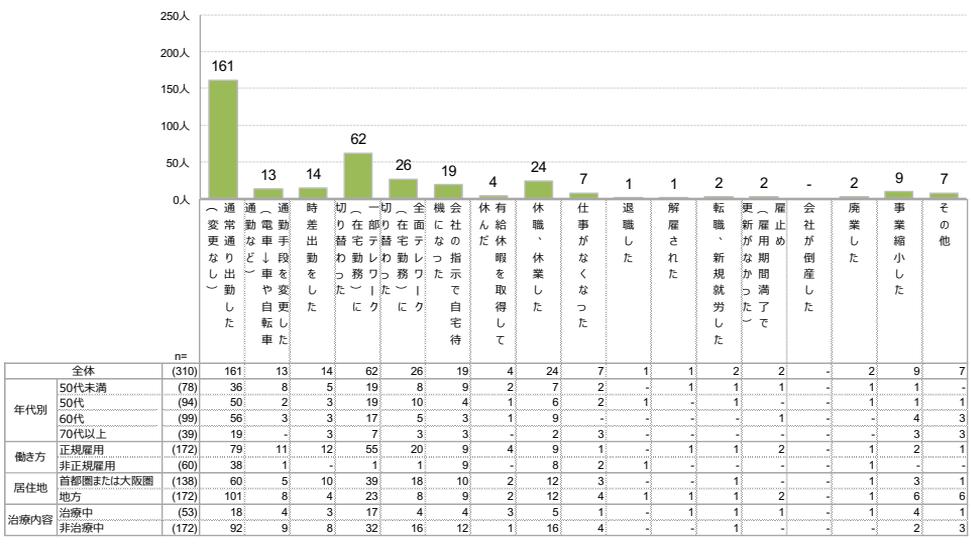
### 10-④ 緊急事態宣言解除前後の働き方の変化（正規雇用・非正規雇用）

Q10 お仕事をされている方にお聞きます。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出されている間（2020年4月7日～5月25日）、あなたの働き方はどうなりましたか？該当するものをお選びください。 MA



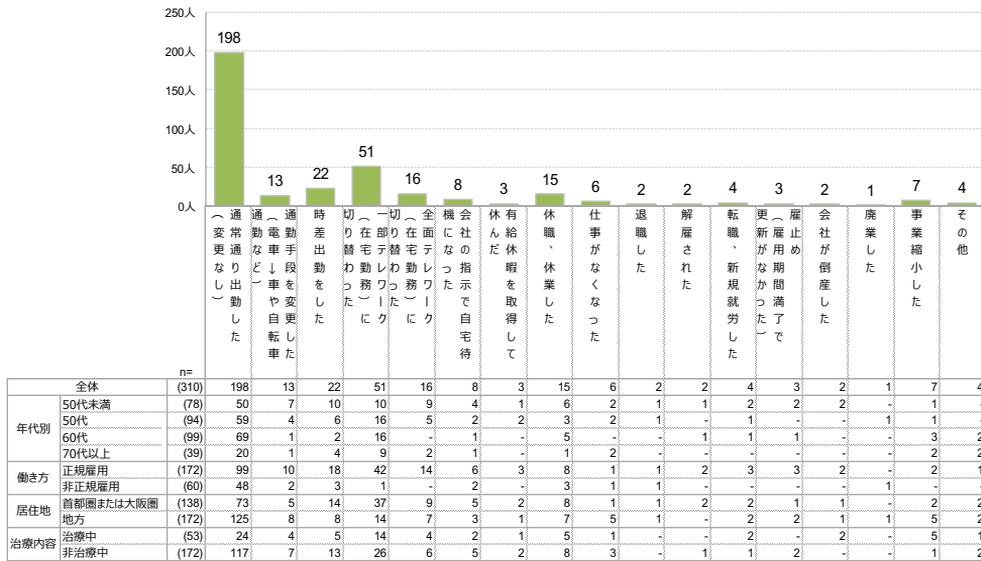
### 10-⑤ 緊急事態宣言中の働き方（まとめ）

Q10 お仕事をされている方にお聞きます。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出されている間（2020年4月7日～5月25日）、あなたの働き方はどうなりましたか？該当するものをお選びください。 MA



## 11 緊急事態宣言解除後の働き方

Q11 お仕事をされている方にお聞きます。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された後（2020年5月26日以降）のあなたの働き方はどうなりましたか？該当するものをお選びください。 MA



CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

## 12 緊急事態宣言解除後の労働時間の変化

Q12 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された後（2020年5月26日以降）のあなたの働く時間は、緊急事態宣言が出される前から増えましたか？減りましたか？ SA



※1%未満のスコアは非表示

CSRProject © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

### 13 緊急事態宣言前後の月収の変化



### 12-13 緊急事態宣言前後の月収・就労時間の変化

(%)

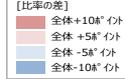
	全体	自営業	経営者・役員	民間企業の従業員	公務員	パート・派遣社員・アルバイト	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
Q12 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除された後（2020年5月26日以降）のあなたの働く時間は、緊急事態宣言が出される前から増えましたか？減りましたか？ ※緊急事態宣言が出される前を「100%」としてお答えください。	変わらない	(件数) (253)	16.2	7.1	39.1	5.5	26.5	0.0	0.0	5.5
	減った	(49)	24.5	4.1	34.7	0.0	26.5	0.0	0.0	10.2
	増えた	(5)	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	その他	(3)	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
Q13 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の前後で（2020年5月26日以降）、あなたの月収に変化はありましたか？ ※緊急事態宣言が出される前を「100%」としてお答えください。	変わらない	(248)	13.3	7.7	41.1	5.6	26.6	0.0	0.0	5.6
	減った	(59)	33.9	1.7	28.8	0.0	23.7	0.0	0.0	11.9
	増えた	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他	(1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 14 緊急事態宣言中の不安度

Q14 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出る間（2020年4月7日～5月25日）、あなたは、どのくらいストレスを感じましたか。

SA

n=30以上の場合



※不安有（「とても強く感じた」+「やや感じた」） ※不安無（「あまり感じない」+「全く感じない」）

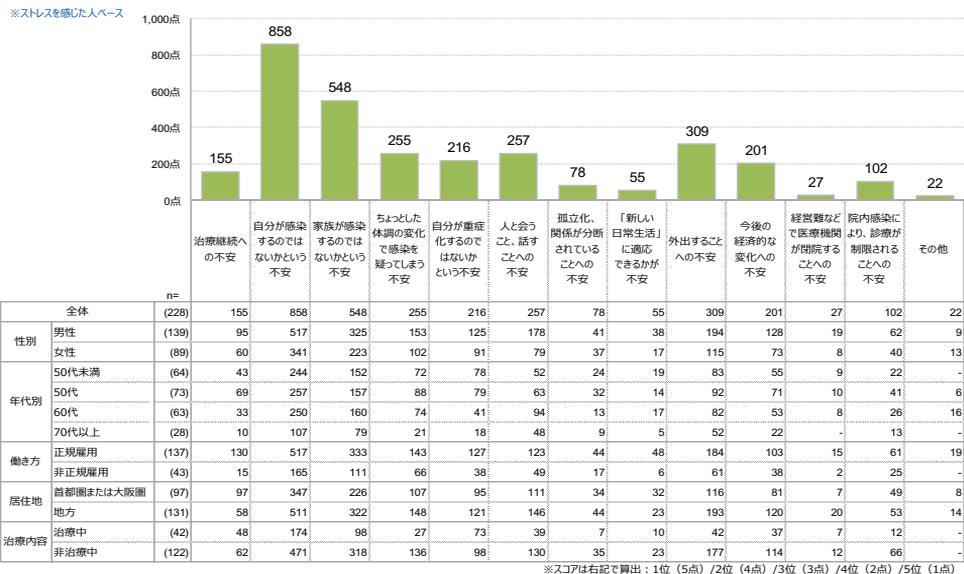
Project © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

35

## 15 不安に感じたこと

Q15 ストレスを感じたと回答した方にお聞きします、どのような不安やストレスを感じましたか？上から5つまでお選びください。

RANK



※スコアは右記で算出：1位（5点）/2位（4点）/3位（3点）/4位（2点）/5位（1点）

Project © Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting

36



© Corporate Social Responsibility for Cancer Survivors Recruiting